

厚田はまなす園移転について

はじめに

日頃より社会福祉法人はるにれの里及び厚田はまなす園にご理解ご協力いただき有難うございます。厚田はまなす園が開園してから皆様に支えられ39年目になりました。社会福祉の分野もこの40年近い年月の中で、制度や支援方法などに様々な変化を遂げてきております。国の福祉政策は集団から個々へのニーズをくみ取り、きめ細かな支援が求められるようになり、知的障がいがある方も入所施設から地域での普通に生活できる仕組みづくりに重点を置いております。石狩市の障がい者福祉計画においても、障がいのある方の地域生活について目標値を定めて推進しています。

厚田はまなす園は、行動障がいがあり、家庭での生活が困難になってきた方を中心に受け入れてきましたが、開園当初からいた方々も60代前後となり、一般的には高齢と言えない年齢ではありますが、実際の身体機能は70代後半ぐらいと思える方が多く、身体介助が必要な方が年々増えてきているのが現状です。

近年では、転倒による骨折・食事中的嚥下の問題・突然死など、利用者さんの衰えを実感する出来事がありました。また、建物内の生活環境に関しても、居室、お風呂、トイレなどはバリアフリーにはなっておらず、利用者さん自身・職員共に苦慮する場面もあります。

知的にも重度で自分の体調の不調などを伝えることができない方々のため、不調になった時には緊急の対応をしなくてはならないことや、通院の増加が予想されます。近隣に嘱託医である、あつた中央クリニック（内科）があるものの、その他の通院は市街地に行かなくてはならず、最も重要である利用者の健康面や自立助長に向けた地域移行支援を行う上で、より良い生活環境での生活を考慮し、地域資源がより豊富な市街地を選定するのが適切であると考え、医療等により近い石狩市樽川地区へグループホームとして移転することになりました。

法人内でも厚田はまなす園の入所施設の継続や他の事業への転換などを検討いたしましたが、近年の人材不足などから事業の継続や転換をすることはできないという結論に至っております。

厚田村時代より厚田区で様々な方々に支えていただき、移転に伴い厚田はまなす園の土地・建物等を地域に還元できるような有効活用することができないか、この度ご相談させていただきたく、この場を設けていただきました。

厚田はまなす園の成り立ち

- 1982年北海道情緒障がい児父母の会（現在の自閉症親の会）が、障がいのあるわが子のための生活の場・終の棲家として入所施設建設の運動から1986年に厚田村関係者の協力を得て、厚生省の法人認可、厚田村議会で建設用地の無償貸与、建設資金の一部を債務負担する決議され、日本自動車振興会の補助金が決まり建設が始まる。
- 1987年4月に厚田はまなす園（定員40名）として開園となる。
- 1996年建物を増設し定員を40名から60名へ増やす。
- 2000年頃より地域生活を進め、厚田エリアでは14か所のグループホームで70名近い利用者さんが地域生活を送ることができております。
- 現在厚田はまなす園は定員30名で22名の方が生活しております。

はまなす園の建設・設備について

1987年 はまなす園開園

1995年 北側半分を増築

1998年 地域交流ホーム萌 建設（国道沿いの建物）

2011年 非常電源発電機 スプリンクラー設置

設備

暖房設備：重油ボイラーが3機

各居室にエアコン設置

厨房設備（最大100名規模ぐらい）

①萌 1階：喫茶・パントリーなど 2階：会議室 宿泊できるゲストルーム

②作業棟 ③非常用発電機室 ④自活訓練棟



